

プレスリリース

2015年3月19日
国境なき医師団（MSF）

シリア：北西部の村に塩素ガス攻撃、6人死亡——現地医師が報告

シリア北西部イドリブ県サルミンで3月16日、塩素ガスにより6人が亡くなり、さらに70人に被害が及んだ。国境なき医師団（MSF）が現地で活動するシリア人医師らから報告を受けた。同地は反政府勢力の支配地域で、ヘリコプターがタル状の容器を投下するのが目撃され、地面への着弾とともに窒息性ガスが発生したという。MSFは負傷者の治療にあたるサルミンの病院を支援しており、これらの情報を得た。

塩素中毒の症状

サルミンの病院は近隣の村からの患者搬送を受け入れた。同病院の院長の話では、患者の中には幼い子ども3人とその両親の一家があり、非常に深刻な容体だったという。両親は、話ではできたものの、重篤な呼吸困難に陥っており、まもなくこの一家は全員、病院で亡くなった。子どもたちの祖母も病院への搬送が間に合わず窒息死したという。サルミンの病院スタッフによる状況や症状の描写から、塩素中毒は間違いなく、その他の毒物を示す症状は報告されていない。

近隣の村や救急スタッフも被害に

同院長によると、当時は暗かったため空に目立った変化は見られなかったが、空気から消毒剤のようなにおいが漂い、患者の衣服からは塩素特有のにおいがしたという。

今回の攻撃による被害者の容体はまちまちだが、その多くが深刻な呼吸困難に陥っている。サルミンの病院の医師は、興奮状態、口角の血の泡、皮膚のかぶれが見られる重体患者が20人いたと説明している。同病院で治療を受けた被害者70人は、タル爆弾で最初に攻撃された近隣の村の住民だ。サルミンの人びとと、援助に駆け付けたボランティア組織 Syrian Civil Defence（シリア市民防衛団）の救急スタッフもその後、夜間の攻撃に遭っている。被害者は酸素吸入とともに、気管支の拡張や、熱傷に起因する炎症の治療といった処置を受けた。医師たちによると、吸入マスクが非常に有効だったという。

MSFはシリア国内では6カ所で医療施設を運営するとともに、サルミンの病院をはじめ、直接医療活動を行えない合計100余りの医療施設に、薬や医療物資を寄贈し支援。また、ヨルダン、レバノン、イラクでもシリアからの患者に対応している。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平／趙 潤華

TEL：090-5759-1983 FAX：03-5286-6124

E-mail: press@tokyo.msf.org <http://www.msf.or.jp>